

第3回旭川駅周辺かわまちづくり計画推進WG 議事要旨

日時：令和6年11月21日(木) 18:00~20:00

場所：旭川合同庁舎 東館1階 入札執行室

出席者：佐藤座長、鈴木委員、荒屋委員、荻野委員、寺島委員、億貞委員、馬場委員、小原委員、川辺委員 計9名

議題：前回WGの振り返り、施設設計、各事業の報告、今後のスケジュールについて



1. 議題に対する意見

(1) 施設設計への提案

- ・委員から提案のあったコンセプトを主として考えながら進めていくことが重要で、それにオシャレさやカッコよさのエッセンスを加えることで、洗練された非常に魅力的な旭川になってくると思う。
- ・委員からの提案内容は、これまでの取り組みにはない視点も含まれているので、今後の検討の材料としていきたい。
- ・短い期間で断片的に川づくりをしても長いスパンで見れば大きな川の動きを阻害することになるので、川を人間に合わせるのではなく人間が川に合わせていくような利用、緩やかな川づくりをしていくことが大事だと思う。

(2) 施設設計

[神楽岡公園]

- ・維持管理面を考慮して産卵環境創出が図れる掘削敷高としているが、産卵に適した流水や河床材料等の環境条件を確保することの方が重要である。
- ・アクティビティ利用を考慮して必要水深を確保することにしてしまうと、施工業者は全部同じ水深でフラットに整備するので、それは違うと思う。
- ・サケやサクラマス産卵環境を作るという意味では、サクラマスであれば伏流水、サケであれば湧水があるような環境にしないと絵に描いた餅になってしまう。
- ・当初は水辺に近づけるような親水広場のイメージだったので、少し川に入られるような遠浅を整備できないか。
- ・左岸側河道整正箇所小さな川のような水路があると、そこで子どもたちを安全に遊ばせられ

るのではないか。

[側帯]

- ・現計画地点の上流に水道やトイレが整備されている小さな公園があるので、その公園の近傍に位置を変更した方が、利便性や利用価値が向上するのではないか。
- ・位置変更の可能性等について、次回ワーキングで報告してほしい。

[JR 旭川駅南口]

- ・JR 旭川駅南口付近が水衝部で、少し高い左岸から右岸に落ち込んでいくような形状になっていると思うので、中洲の状況や川の取り込みを考えないと親水広場の利用やボート・カヌーの発着ができる水の流れを確保することができないと思う。
- ・右岸側は車があまり入れない状態で、カヌーを上げたとしても休憩ぐらいしかできないので、発着場としては使えないと思う。
- ・左岸側は河川管理用道路があり、その脇に車を置けるスペースを少し確保すれば、カヌーの出し入れに十分使える。
- ・買物公園からずっと歩いてきて駅を真っすぐ通過して出てきたところになるので、川を見た時の景観を考慮した設計としてほしい。
- ・サケやサクラマスの産卵床が集中しているところなので、カヌーの発着場は右岸よりも左岸に整備した方が良いと思う。

[ツインハーブ橋上流]

- ・修学旅行生がバスで来てカヌーやラフティングを利用するといった体制が組めるのか。サイクリングを想定して起終点としていく考えでよいか。
- ・維持管理等の問題が出てくると思うので、利活用や整備が本当に今の時点で必要なのか、慎重に長い目で考えていく必要がある。
- ・施設を整備することで、修学旅行生も受け入れることができる、リバースポーツをもっと盛んにすることができる、川のまち旭川をもっと前面に打ち出していけると思うので、まずは整備することが重要だと思う。
- ・実際カヌーに乗っていてアクセスが厳しいので、アクセスが容易にできるような整備が必要だと思う。
- ・バスが来る駐車場やリバースポーツ・サイクリングの起終点になるのであれば、トイレの整備が必要になる。

(3) 今後のスケジュール

- ・説明資料は事前送付してほしい。
- ・かわまちづくりの構想が進んでいくと、維持管理等の面で旭川市の仕事が増えると思うが、旭川市としてどのように考えているのか。

2. 情報連絡・意見交換

- ・現実として今後予算の問題が出てくるので、地域全体を盛り上げる観点からも、素敵な景色、地元の人たちが豊かになる時間を継続できるような方法を提案してほしい。
- ・全国川サミットでは、かわとまちと人の関わりの本質的なことが宣言されており、かわまちづくりを考えていく上で非常に大切なものだと思うので、宣言を踏まえながら進めていくと良い方向に向かうと思う。

- ・観光や自然に関する議論はあったが、子どもが学べる環境という側面はなかったもので、子どもたちが川を語れる環境をかわまちづくりのひとつの視点として入れることがとても重要で、支援してくれる方々がいることで旭川の川の学びが続いていくと思う。
- ・小学校で水質調査や生き物調査等のいろいろな活動をする場合、どうしてもお金がかかってしまうので、川との触れ合い、水で濡れた時の着替え場所、市営バスで来ることができる利便性の観点から、JR 旭川駅の近くにそういった環境があるのは非常に魅力的である。
- ・JR 旭川駅周辺でラフティングをすることは子どもたちにとってすごく魅力的で、親水広場で子どもたちが川と触れ合うことによって、ここで今度どんなことができるかという未来づくりも語れると思う。
- ・予算は課題になってくるが、子どもたちの学びには誰か支援・応援してくれる人がいることが一番良いことなので、そういう仕組みができればいいと思う。
- ・かわまちづくりを一過性の事業で終わらせないためにも、冬場の河川の利用や学習コンテンツをもっと積極的に考えていく必要があるので、関係するグループや団体を増やしていくこともありだと思う。
- ・実際、かわまちづくり計画が完了した時にうまく回っていくかが非常に大事である。
- ・SNS の宣伝、川遊びと環境についてのルール、観光の誘致、学習コンテンツ等を考えていく中で、今のワーキングではなかなか良い意見が出てこないと思われるので、来年度以降専門的な部会を作って素案をボトムアップでワーキングに出すような体制としていくのはどうか。

以上